

(一般質問)

質問日	令和6年12月9日(月)			質問方式	分割方式		
質問順位	4	会派名	市民クラブ	議席番号	11	氏名	花井 洋介
表 題	質 問 内 容						答弁者の職名
1 本庁から広げる交通安全意識の向上について	令和5年中の本市における人身事故発生状況は、発生件数4,999件(前年比-95件)、死者数10人(前年比-10人)、負傷者数6,330人(前年比-189人)で、いずれも減少している。しかしながら、政令指定都市における人口10万人当たりの交通人身事故件数のワースト1脱却には至っていない。 これまで市民に対して、様々な交通安全に対する取り組み、啓発を進めており、成果となって表れている一方、職員による事故は増加傾向である。高い目標に対して取り組みを加速していくためには、議員を含め本市に関わる全ての方々の交通安全に対する意識の向上が必要と考える。 そこで、以下伺う。 (1) 公用車による事故が増加していると感じるが、事故件数の推移はどうか。また、職員に対する交通安全教育について伺う。 (2) 本庁駐車場での逆走や一時停止無視など、マナー違反が多く見受けられる。表示看板や路面標示などが分かりにくいとの意見もあるが、見直す考えはないか、伺う。						鈴木財務部長
2 Go!みんなで404チャレンジについて	令和10年までに家庭系ごみ排出量を「一人1日あたり404g」まで減らすことを目指し、その目標達成に向けて、様々な取り組みをして効果をあげている。一方で物価高の影響での買い控えや、人口減少などから全国的にもごみ減量が進んでいると言われている。 そこで、以下伺う。 (1) 今後のごみ減量の推移をどのように捉えているか。また404gという目標達成に向けて、次年度以降の新たな取り組みについて伺う。 (2) チャレンジ元年度は「雑紙」の推進がごみ減量に大きく寄与したと捉えているが、この先更なる減量に向けて、「プラスチック資源」の回収促進が重要と捉えている。 ア プラスチック製品の回収リサイクルについての検討状況はどうか。 イ プラマークの日に出せるプラスチック製容器包装の種類や汚れの基準、リサイクルの実態について、より丁寧な周知が必要と考えるが、いかがか。 ウ 熊本市では、「熊本市ごみレポート」を発行し、市民に対してごみ排出状況の推移やリサイクル量の推						山田環境部長

※二重線は、分割方式を選択した場合の分割箇所を示すものです。

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
	移などを詳細且つ分かりやすく、グラフを用いて示している。市民の意識向上に大きく寄与すると考えることから、本市も参考にしてはどうか、伺う。 (3) 家庭での意識改革を進めていくうえで、小学生への教育が重要と考える。現在の取組みを更に進化させ、「ごみ分別ゲーム」など、楽しく分かりやすい教育を市内全域で実施してはどうか、伺う。	
3 公用車のカーボンニュートラルへの貢献について	本市は令和2年3月に「2050年までの二酸化炭素排出実質ゼロ」達成を表明した。達成に向けて「浜松市地球温暖化対策実行計画」では、公用車使用に伴う二酸化炭素排出量の削減を図るため、計画的に電気自動車の導入を進めている。 そこで、以下伺う。 (1) 公用車の電動車の占める割合、導入実績はどうか。また、目標達成に向けてどのように導入を進めていくか。 (2) ごみ収集車のEV化も進んでおり、各地で導入や実証実験が行われている。公用車のEV化は、全体的なEV化促進、インフラ強化につながることから、本市でも導入すべきと考えるが、いかがか。	袴田カーボンニュートラル推進事業本部長 山田環境部長
4 カーボンニュートラルの実現に向けた新技術・イノベーションの推進について	「浜松市地球温暖化対策実行計画」では、本市から排出される温室効果ガスを2030年度において2013年度比で52%削減する目標を掲げている。目標を達成するため、計画では4つの基本施策を掲げており、その一つである「新技術・イノベーションの推進」については、昨年度「浜松市カーボンニュートラル推進協議会」を設立し、強力的に推進されている。また、開催された事業には非常に多くの企業の方が参加しており、地域企業の関心の高さを伺い知ることができた。「新技術・イノベーションの推進」は期待が大きく、カーボンニュートラルの実現に向けて重要な取組みであると考えます。 そこで、「浜松市カーボンニュートラル推進協議会」の活動を含め、カーボンニュートラル達成に向けた新技術・イノベーションの推進に関する今後の取組み、事業展開について伺う。	袴田カーボンニュートラル推進事業本部長
5 中学生未来議会について	中学生未来議会は昭和44年から続く大変歴史の長い取組みで、参加者にとって市政を知る、議会を体感する良い試みであるが、長い年月同様の取組みとなっている。また、自分たちが提案した内容に対して、その場で市長や所管部長から回答があるが、実際に市政にどう生かされたのか知る機会がない。より良い取組みとして、	中野市長

表 題	質 問 内 容	答弁者の職名
6 休日の部活動地域移行について	市政への関心を更に深めてもらうため、継続的にかかわることができる機会を設けるべきと考えるが、伺う。 令和8年9月以降、休日の中学部活動の地域移行に向け、具体的な進め方が「地域クラブ活動協議会」で議論されている。全ての生徒にとって、持続可能で、スポーツ・文化芸術活動に継続して親しむことができる環境構築が必要であり、議論が加速していくことを期待している。 そこで、以下伺う。 (1) 中学校の教員から、学校運営協議会で議論するのは難しい、どの様に進めていいかわからない、といった声も聞いている。各学校、地域によって状況が違う中で、今後どのように進めていくか、伺う。 (2) 具体的な議論が進む中で、教員の地域クラブへの気持ちにも変化が出てきていると聞いており、現状の協議会での認識と乖離している可能性があるが、考えを伺う。 (3) 現状の外部クラブチームが、部活動の地域移行に際して受け皿となり得るのか、地域クラブとして支援を受けられるのか、検討状況を伺う。	奥家学校教育 部長
7 相撲場の整備について	本市唯一の相撲場が、中田島の風車公園内にあり、毎週土曜日には練習が行われ、現在30名弱の小中学生が汗を流している。他のスポーツと同様、健康増進、チームワーク形成などスポーツを通して人としての成長に大きく寄与している。その相撲場も築年数が45年を経過しており、施設としての老朽化に伴う不具合が発生している。また、雨が降ると水捌けが悪く土俵周りは水につかってしまい、日にちが経っても土俵下はぬかるんだままになっており危険である。 そこで、風車公園内にある相撲場の整備、施設の老朽化対応について今後どのように進めていくか、伺う。	中村花みどり 担当部長
8 施設予約システム「まっぼっくり」について	施設予約システム「まっぼっくり」について、来年1月16日から新システムへ移行すると発表があった。これまでも会派として改善の要望を出してきたため、期待している。 そこで、以下伺う。 (1) 新システム移行に伴う変更内容について伺う。 (2) 特段の手続きはないと伺っているが、利用者への周知、説明はどの様にしていくか、伺う。 (3) 小中学校体育施設のインターネット予約システム「まちかぎりモート」の運用が始まったが、同システムとの統合が利用者にとって望ましいと考えるが、いかがか。	水谷デジタル ・スマートシ ティ推進部長